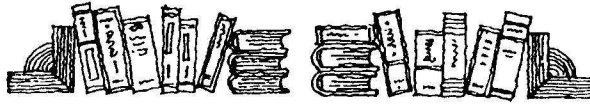


国語国文学会だより



No. 19

1998. 8

日本文学科卒業生の会

国語国文学会 春の総会・研究発表会報告

平成十年度春の総会・研究発表会を五月二十八日(木)、香雪館四〇一号室で開催しました。

◆第一部 総会 議事 他

(1) 国語国文学会会長挨拶 源 五郎先生

(2) 上村悦子賞授与

(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介
(学生会の会・卒業生の会)

(4) 平成九年度活動報告・決算

(5) 平成十年度活動計画案・予算案・監査選出

(4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明をし、各案件とも審議後承認

(6) 自主ゼミ発足(学生の会、卒業生の会) 承認

◆第二部 報告・研究発表

・『平家物語』における武装表現について

——敦盛と与一を中心に——

学生自主ゼミ(中世) 壬生 里巳

・私と短歌のかかわり

卒業生の会(新入) 實藤恒子

・小野小町——夢の歌六首に関する考察——

(新48) 田中 彩子

卒業生の会より實藤恒子さんが在学中の短歌との出会いからアララギを経て、新アララギに参加されるまでの長年の短歌に寄せる思い、その作法を、自作を紹介されながら発表されました(詳細

は次号)。新一年生が必須科目の単位ということ
で出席が多く、会場は満席。先生方や参加者の鋭
く、かつ暖かな質問が続く中、午後一時五十分、
大会を終了しました。

引き続き、新旧交代の会を開き、秋の大会につ
いて、打合せを行いました。

秋季大会・公開講演会のご案内

日時・平成十年十一月二十一日(土) 一時～

劇作家・演出家 永井 愛氏

平成八年度紀伊国屋演劇賞個人賞を二
兎社公演「僕の東京日記」の作・演出で
受賞。気鋭の演劇人として、大石静さん
と二兎社を創設したことで著名。講
演タイトル、プロフィール次号。

日本女子大学教授 清水康行氏

「近代日本語の録音資料あれこれ」と題
し、二十世紀日本語の録音資料群の概要
と、川上音二郎一座・大隈重信・渋沢栄
一などの録音を紹介される。

懇親会・終了後、生協食堂ウイミンで。

*研究発表会 午前十時～十二時

発表希望の方は、3ページのきまりを参照
の上、ご応募ください。

——秋季大会に関する詳細は次号——

◆総会議事より

平成九年度（卒業生の会）活動報告

(1) 総務

- ・春季総会・研究発表会開催 五月二十九日(木)
発表「国文学との出会い」 旧 46 山田佐和子
- ・はぎ通信五月、十一月
- ・組織の強化 各回生に委員を選出する
- ・企画
- ・自主ゼミの設立と活動（四ゼミ）
- ・秋季大会 研究発表・総会・公開講演会・懇親会の開催 十一月二十九日（土）

「森嶋外『仮面』―反転するホモソーシャル」
41回・院31回 藤木直実

「六条御息所の社会的背景―前坊の後宮から―」
37回・院27回 柳澤理恵子

「林扶美子『放浪記』の言語検索」
8回 宇治土公三津子

講演

「文学と音楽の間―オペラ忠臣蔵を執筆して思うこと―」
作家 島田雅彦氏

「中国思想史と現代中国をつなぐもの」
本学助教授 谷中信一氏

・文学散歩の実施 十月二十五日(土)

―隅田川の文学の舞台を訪ねる―
……浅草の観音様、浅草神社を経て、隅田川河畔、東京大空襲の死者を悼む碑に花束と水を捧げた後、武島羽衣先生作詞「花」の前で合唱。対岸に渡り、木母寺、長命寺等文学の舞台を辿りつつ

長命寺の桜餅を賞味。荷風が晩年執着した吾妻橋まで足をのぼす……

(3) 会計

- ・会費納入への依頼、未納者への働きかけ
- ・活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

- ・「国語国文学会だより」発行 十七号（八月）、十八号（十一月）
- ・会員名簿の発行準備郵便番号7桁化に向けて

平成十年度（卒業生の会）活動計画案

(1) 総務

- ・回生委員、常任委員の選出
- ・春季総会・研究発表会の開催 五月二十八日(木)
- ・はぎ通信五月（春の総会案内）
- ・はぎ通信十一月（秋季大会出欠、住所確認、ひとこと）

(2) 企画

- ・自主ゼミの活動（四ゼミ 別記）
- ・秋季大会の開催十一月二十一日（土）
- ・研究発表会・総会・講演会・懇親会
- ・文学散歩

(3) 会計

- ・会費納入の確認
- ・収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

- ・「国語国文学会だより」の発行 十九号（八月）、二十号（十一月）
- ・会員名簿の発行

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成九年度決算報告（1998.4.30現在）

【収入の部】

前年度繰越金	644,057
会費	767,500
利子	1,213

収入合計 1,412,770

【支出の部】

通信費	292,852
文具費	5,943
コピー代	3,472
会報印刷費	80,180
新入会員名簿費	0
委員会活動費	8,205
委員会費	28,000
交通費	4,000
行事費	40,000
ゼミ費	55,000
講演会費（講演料）	25,408
大会諸経費	0
新会員PR費	100,000
設立準備金返済費（8回目）	0
慶弔費	0

支出合計 643,060
繰越金 769,710

上記の通り決算報告致します。

会計 安東佳代子 保志美也子

監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。

監査 岩野圭子 荻窪昭子

平成10年度常任委員

南美枝子(旧31) 児玉久美子(旧46) 立川和子
(新1) 綾野道江(新5) 津田英子(新6) 實
藤恒子(新7) 菅野富通子(新11) 土橋ユリヨ
(新31) 平山静(新34) 高野晴代(院14) 小島
恵子(院17) 高橋順子(院18) 成島知子(院26)
藤木直実(院31)
なお、回生委員は名簿紙上で紹介します。

平成10年度研究サークル

*平安文学談話会(平安文学に関する研究)
金曜日 午後五時半または土曜午後一時(年四
回) 日本文学科研究室
・高野晴代 ☎〇三(三三七〇) 六八〇六

*皇女研究会(皇女総覧平安朝篇の作成)

毎月第二土曜日 午前十時半
大学図書館共同研究室
・柳澤理恵子 ☎〇四五(八四一) 六五二五
楠木方

*古代中世文化論(中世の芸術論)

毎月第四月曜日 午後一時半
日本文学科資料室四二六

・山田佐和子 ☎〇三(三九七二) 四八四三

*中島斌雄先生の俳句を読みながら

毎月第三土曜日 午後二時
中島斌雄先生宅
・綾野道江 ☎〇四四(九六六) 五四二五

ゼミに参加ご希望の方は、随時各ゼミ代表者にお申込みください。

また、ゼミ設立希望の方は五名の同意者を募った上、企画係までお申込みください。春の総会で設立が認められますと、活動費が会より助成(年一万円)され、資料室四二六号の使用が、原則的に研究室より許可されます。

(お知らせとお願い)

*振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円の納入をお願い申し上げます。

*なお、本年度より会費を三年

間未納された方には、総会、大会案内、「国語国文学会だより」の送付を中止させていただきま

す。ご了承ください。



*研究発表会 発表者募集

日時：十一月二十一日(土)

午前十時〜十二時

・発表時間 三十分、質疑十分

・応募資格 本学国語国文学会会員

・応募方法 四〇〇字以内に発表要旨をまとめ論題とともに申し込む

・応募先 〒一一二〇〇一五 東京都文京区目白台二一八一 日本

女子大学日本文学科研究室内

「国語国文学会秋季大会研究発表者募集係」

発表者募集係

・締切り 九月二十八日(月)

・選考方法 国語国文学会において選考、結果は後日、個別に連絡する。

日本女子大学 国語国文学会

ご希望の方は、右記によりご応募ください。

研究室だより

○今年度は、七年間、学部・大学院で教鞭をとられ、学科長（二期）や専攻主任をつとめられ、日本文学科の発展にご尽力くださいました、阿蘇瑞枝教授がご定年で退職されました。その間、国文学科から日本文学科への名称変更など色々とお骨折りを頂きました。ここに記して感謝したいと存じます。

○阿蘇先生のご後任として、上代文学専攻の小川靖彦先生を、和光大学からお迎え致しました。

○藤原浩史先生が専任講師から助教授に昇任されました。

○昨年度、早稲田大学を中心に国内研修に出られた佐久間まゆみ先生がご帰任になりました。

○今年度は倉田宏子先生が、お茶の水女子大学に国内研究に出られています。

○助手の植田恭代さんが退職され、新しく佐野江美さんが着任されました。専攻は日本語学です。

○後藤祥子先生は引き続き学生生活部長をつとめられ、田中功先生は図書館事務部長に着かれました。

○ほかの先生方は昨年とかわりません。

小川靖彦先生（上代文学）

後藤祥子先生（中古文学）

麻原美子先生（中世文学）

浅野三平先生（近世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

高橋智子先生（近代文学）

清水康行先生（日本語学）

藤原浩史先生（日本語学）

谷中信一先生（中国思想史）

田辺和子先生（外国人留学生特別科目）

田中 功先生（図書館情報学）

源 五郎（近代文学）の十一名です。

○助手さんは、白石美鈴さん、溝部優美子さんに新任の佐野江美さんです。非常勤の助手は昨年同様八木京子さんです。

○国語国文学会の担当は、麻原先生、谷中先生、白石さんです。

（日本文学科科長 源 記す）

◆先生方の新刊著作紹介

『編集委員代表麻原美子』

日本の文学とことば

日本文学はいかに生まれ
いかに読まれたか』

麻原先生を代表に、日本文学科の先生方が中心になつて執筆された『日本の文学とことば』が刊行されました。「文学は豊かな創造的精神を育む土壌として、時代を越えて私たちの心の拠り所となるものである」（はしがき）とあるとおり、その所以が時代別に、ジャンル別に解説されています。一例をあげますと、

・日本文学のありか（詩と真実、文学のかたち、文学と社会、文学と自然、文学と思想、中国思想と日本文学）

・日本文学のことば

・日本の文学（上代―祭式と神話、万葉の世界

等、中古―王朝和歌の世界、「源氏」創造等、中世―中世の抒情、物語空間の変貌等、近世―町人世界の小説、江戸の演劇等、近代・現代―散文の構想力、戯曲の近代、批評の確立等）

文学への知的な、楽しいガイドブックとして側におきたい一冊です。秋季大会会場で、頒布の予定です。

発行所・（株）東京堂出版

定 価・二千三百円＋税
803133313741

『青木生子著作集』全十二巻

好評のうちに十巻まで刊行されました。この秋には全巻刊行の予定です。ご希望の方は、左記へお問い合わせください。

（株）おうふう 03-33295187

お詫び・後記

発行が遅れましたことを、お詫び申し上げます。次号は、大会案内号です。また、秋季大会は今年度は十一月二十一日（土）です。どうぞ今からご予約ください。

気候不順の昨今、おいとください。

一九九八年八月三十一日

発行・日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒112-0015

東京都文京区目白台二一八一

日本女子大学 日本文学科内

平成九年 秋季大会

研究発表・公開講演会 報告

平成九年十一月二十九日(土)、国

語国文学会秋季大会を香雪館四〇一
号室において開催した。午前十時よ
り研究発表、午後一時より総会、公開
講演会、終了後懇親会(生協食堂ウイ
ミン)を開き、午後六時過ぎ、会を開
じた。

午前の研究発表は大学院生が、午後
の総会、公開講演会は学生と卒業生の
会が、懇親会は卒業生の会が中心とな
って運営した。生憎の天候であつた
が、発表は熱意にあふれ、質疑も活発
に行われた。

午後の公開講演会は、中国での研修
を終えて帰国された谷中信一先生が
『縦横家』にもふれられる貴重な講演
と、幅広い分野で活躍中の作家島田雅
彦氏の講演が続いた。学生会員の参
加が多く、島田氏のユニークな、ユー
モアあふれる講演に会場は湧いた。
島田氏は懇親会にも最後まで参加さ
れ、学生時代の思い出、日頃思うこと
などを話してくださり、参加者、こと
に学生から盛大な歓迎を受けられた。

研究発表から懇親会まで、聴覚に障害をもちなが
ら会員の手話通訳を受けつつ参加された方に、周
囲からは感動の声ももれた。

発表・講演演題は次のとおり(発表順)

◆研究発表

「森嶋外『仮面』―反転するホモソーシャル」

41回・院31回 藤木直実

「六条御息所の社会的背景―前坊の後宮から―」

37回・院27回 柳澤理恵子

「林扶美子『放浪記』の言語検索」

8回 宇治土公三津子

◆公開講演会

「中国思想史学と現代中国をつなぐもの」

本学助教 谷中信一氏

「文学と音楽の間―オペラ『忠臣蔵』を執筆して
思うこと―」
作家 島田雅彦氏

講演要旨

文学と音楽の間

―オペラ『忠臣蔵』を執筆して思うこと―

作家 島田雅彦

すでに小学生の項に桃太郎のパロディー版の脚
本を手掛けて以来、芝居熱は潜在していた。

私は中学生くらいの時には、小説家として立つ

ことを決めていた。小説というのは、五感とい
う、あるいは情緒というプリミティブな素材をい
かに言葉で説得力をもって語るかという世界で、
アートの諸ジャンルの基礎にあたるものと考えて
いる。そのため、私は美術や音楽からその独自の
語法を学んで、独自のエモーションの表現の仕方
を学んで、いつかそれを総合的なジャンルに結実
させたいと思ってきた。

外語大入学後、美術部に入り、現代美術につい
てエッチングとかシルクスクリーンなどを学び、
三年次には学園祭でロシアでは発禁のシヨスタ
コーヴィツチ作曲のオペラ『ムツェンスクのマク
ベス夫人』を、オペラは無理とロシア語で芝居仕
立てにして上演した。

また、オペラへの憧れは強く、そのために音の
響きにも精通したい、スコアも読みたい、楽器も
弾きたい(ピアノ)とオーケストラに入部した。
小説も書き、何にでも挑戦してきた私だが、俳優
が未体験だったので、唐十郎さんの誘いでアング
ラ劇団に入り、公演に参加した。村上龍氏の映画
に興味本位で出演もした。

あとやることは一つしかない。それがオペラだ
った。機が熟し、オペラ『忠臣蔵』の依頼があつ
た。脚本の構成は作曲者三枝氏との間で早くから
決まっていた。むずかしいのは、言葉。音がすん
なり耳に通るような日本語でなければいけない。
オペラは音楽ですから、リズムに合わせ、音程の
高低に合わせた発音しやすい言葉、響きの美しさ
を考えなければならない。一番発音しにくい母音

うが、高い音程のところに来てしまうと、非常に発音が難しい、聞き取りにくくなる。

日本語の発音自体をデジタル的に分解し、美しい響きに聞こえるよう、工夫をこらし、幸い好評を得た。オペラは金食う虫だが、日本語のオペラをもっと作っていかねばいけないと私は思っている。

中国思想史と現代中国をつなぐもの

日本女子大学教授 谷中信一

(1) はじめにー なぜこのテーマか？

このタイトルは、元の「中国思想史学研究者は現代中国を正しく理解することができるか」あるいは「中国思想史の研究成果は現代中国をよりよく理解するために役立つか」を短くしたものである。その主要な視点は、「過去につながる現在」「現在とつながる未来」というところにあり、言い換えれば現代を過去からの延長線上に置いて見るという「歴史の連続性」を確認する作業といえる。思うに、歴史というものは川の流れのようなもので、過去から現在そして未来に向かって切れ目なく続くのであるから、「歴史を清算する」といつてみてもそれは一つの考え方に過ぎず、それによって歴史そのものが断絶されるわけではない。それゆえ、過去の中国を学ぶことと現在の中国を理解することと無関係ではありえない。それにしても、遥か二千年以上も昔の思想史を研究すること

は、現在の中国を理解するのに本当に役立つのであろうか、というのが正直な実感である。日本で二千年前といえば、弥生時代に当り想像を絶するほどの遙か昔だからである。

ところがこの二千年という時間も、中国にいてあちこち見聞していくうちに、それほど遠い昔でもないのではないかと思えてきた。歴史の太い流れが、まるであの長江のように滔々と続いているなという感じである。

ところで、現代の中国の専門家はチャイナウォッチャーといわれる人々である。彼らは専ら中国の政治・経済・社会を時の国際情勢と関連させつつ客観的にウオッチして、現代の中国を理解するとともにその将来を読み取ろうと務めている。彼らの分析力は実に鋭いものがあるけれども、唯一の欠点は歴史的視点に欠けるのではないかという点である。或いはあつてもせいぜい一九世紀半ばの阿片戦争以後の近代史ではないか。

一方、中国思想史研究者といわれる人々にとつては、近現代、とりわけ現代は視野の外におかれているのが現状である。

結局、両者は中国を研究対象にしながら、異なったフィールドにいるわけで、そこに情報の交換はあまりなされていないようである。

しかし、孔子はいう、「温故知新」と。ところでこの「温故知新」をどう理解すべきか？

例えばこう言い換えてみる、「故きを温めて故きを知る」と。これでは単に勉強して古典の知識

をつけたということに過ぎない。今の中国を知ることからは遠い。では、「新しきを温めて新しきを知る」ではどうか。これも単なる新し物好き。人間の根っこが遠い過去にしっかりとつながられていることに気付かないだけのこと、近視眼的な理解に終わる危険性がある。

つまり、「故きを温める」以上、「新しきを知ら」ねば、何の価値もないわけで、過去を通して今を知り、さらには未来を洞察する力を身に付けることの重要性を言う言葉として改めて噛みしめる必要がある。

(2) 「思想史学」とはどういう学問か？

このことについて簡単に述べておきたい。

まず、思想とは人々の「ものの考え方」、例えばまず人間観・世界観・国家観・自然観・人生観・死生観などがあり、さらに政治思想・倫理思想・法思想・芸術思想・宗教などもこれに含まれる。そうした一見雑多な思想の中からあるテーマを決めて、それについてその特色やその発展展開の過程を追いかけて、その変化の仕組みを時間軸に沿って明らかにしていくこと。それによって過去のある時代に生きた人々のものの考え方の内容やその特色を知ることが可能になる。

その場合でも、「思想は時代によって異なる」「思想は時とともに変化する」という前提と、「人間の普遍の本質とはなにか」という問題意識との、一見矛盾した考えのものと成り立っている学問だといえる。

(3) 中国思想史と現代中国をつなぐものはあるのか？

人の思想は自然環境や社会環境によって制約を受けており、中国文化・思想も例外ではない。その制約は主に、ものの考え方の仕組みに反映しているから、社会の仕組みが変わっても、人のものの考え方の仕組みまで一緒に変わることは難しい。実際、今世紀半ば以降半世紀にわたって、辛亥革命さらには文化大革命という革命の激動を経験したにもかかわらず、彼らは伝統中国の思考の枠組みから容易に出ていないと判断される。

ちょうどそれは人の一生に似ている。人も生まれてから死ぬまでの間、様々な体験を繰り返すけれども、そのおおもとのところはなかなか変わることができない。このことは、今の自分が子供の頃の自分とどれほど変わったかを、自らに問うてみれば分かりやすい。

だから私自身に即して言えば、この問いは現代中国にみられるさまざまな現象を観察して、古代思想史で学んだ知識を用いてそれをうまく説明できるかということになる。

私は、帰国してから今日まで、現代中国に関する本を手当たり次第に読んだ。留学は、見聞によって知識を補うことが目的のひとつであったが、帰国してからは、書物による知識によって中国で獲得した見聞を補い、或いは確認することに務めた。こうしてこそ知識と見聞が両立して、現代中国の理解がより確かになると同時に、見聞だけではバラバラであったものが緊密に結びつき知識と

してより系統的になると考えたからである。

(4) 中国に一年暮らし見て見たもの

実際中国に留学することは学生の頃からの夢だった。かつて幾度か中国に行ったことはあるが、せいぜい長く一ヶ月、短くて一週間というもので到底満足できるものではなかった。この度ようやくその念願がかなった。そこで「中国にどっぷり浸かろう」と心に決めて北京暮らしを始めたわけであるが、日本と中国の違いは意外に大きいなというのが率直な感想であった。例えば、中国人の三大欲望とは、食欲・性欲・権力欲であるというのに驚くとともに納得した。やはり政治大国なのである。その一方で、昔とちつとも変わっていないのではないかとさえ思える庶民と、彼らを支配する時に暴力的・強圧的な権力者の姿も見た。法治と人治という中国における永遠の課題を目的の当たりにした思いがした。同時に、「民主と人権」という西洋的価値観と、「専制と愛民」という伝統的価値観のすれ違いも見た。

また、中国という大陸に生きる人々のしたたかさ(「強さ、しぶとさ」)を思い知った。彼らは、決してきれいだだけで生きていない、むしろ常に本音で生きている。といって、彼らがきれいだと言わないというのではない。きれいだを言いながらも、しかし本音でしつかりと大地に両足を付けて生きているという印象である。この本音で生きる姿が時にどうしようもないエゴイズムと見えることもある。必死に先を争う人々、決して

相手に譲らない人々、街角でしばしば見かける口角沫を飛ばしての口喧嘩などである。彼ら自身は、皆が己のエゴをむき出しに生きていることを当たり前のこととしてなんとも思っていないかに見えた。荀子の性悪説を思い出した。

これを思想史研究の視点から分析してみると、理想を持ちながらも、現実をしつかり押さえている人生観、価値観がそこにあるということができる。理念理想と功利実益との見事な両立である。決して二者択一ではない。陰陽二元論の本来に恥じない二元的世界観が窺える。

「社会主義市場経済」「一国両制」などという奇妙な論理もその典型とみることができよう。このわれわれからすれば矛盾に満ちた理論を、彼らがおまじめに論じるというのも、こうした二元論的発想が伝統的に身につけているからであろうと思われる。

つまり、陰陽二元論にみられるように、これは互いに相容れることのない対立矛盾関係というのではなく相互補完的関係と見るべきであるというものである。こうした視点から、中国思想としては最も正統の儒家と異端の縦横家という全く相異なる戦国諸子の思想を対比的に考察しつつ、現代中国を改めて見直すとともにいろいろなことが見えてくる。

*大会当日のご講演内容を、先生ご自身が改めてまとめてくださいました。谷中先生は四月より教授に昇任されました。

◆『国文目録』の紹介

*『国文目録』第三十六号（平成九年二月発行）

歌人三浦守治―生涯と作品……………	浅野三平 1
『第七官界彷徨』―町子の（ひと）の恋…	溝部優実子 17
『穀物起源神話』系統試論……………	
―二つのモチーフの共存……………	蒲由美子 26
大伴家持七夕歌試論……………	知古嶋英嘉 35
―巻二十「七夕の歌八首」独詠に關して…	
紫式部の漢文化の受容についての私見…	孫佩霞 44
義経記論―北国落について……………	中村祐子 52
信長公記の信長像―婆娑羅の霸王…	川島夏実 66
後水尾院の本歌取について……………	阿部満美子 75
『或る女』論―『鏡』としての葉子…	菅井かをる 85
『或る女』―葉子と都市空間……………	池川久美子 97
『きりしとほる上人伝』……………	稲田智恵子 106
―『麗しい紅の薔薇の花』に託された殉教…	
『くれない』論―『女房』の要る夫婦…	小林美恵子 115
『桜の森の満開の下』―男を定點として…	西澤真美 126
『滋澤龍彦試論』鏡の映し出すもの…	藤沢晃子 136
椎名誠の『昭和輕薄体』の文体……………	渡邊未知 146
―ジャンル別文体特性の変遷……………	
皇女総覽（六）―有智子内親王……………	皇女研究会 156
〔書評・紹介〕……………	
〔彙報〕……………	181

※申し込み 〒112-0015 東京都文京区目白台二―一八一―
 （葉書で）日本女子大学日本文学研究室『国文目録』係宛
 ※冊子代金は、冊子到着後に払い込んでください。
 送料別三十六号が千円、三十七号が千三百円です。

*『国文目録』第三十七号（平成十年二月発行）

深層格と動詞の意味……………	石綿敏雄 1
小泉八雲と篤胤……………	浅野三平 9
大伴家持の防人歌の悲別の情に対する理解…	
―「ますらを」たらんとする防人……………	今井肇子 20
日本女子大学蔵宝永版万葉集書入の報告…	
―田中道麿関連資料……………	八木京子 30
平安時代の女―宮―史実と物語……………	
〔うつほ物語』『源氏物語』『狭衣物語』から…	
平家物語における小松家と貞能……………	一文字昭子 42
―宝剣小鳥をめぐる……………	伊東由紀子 53
『猿蓑』論―発句の部をめぐる……………	中村文乃 62
松尾芭蕉の形容詞表現考……………	三枝律子 72
『舞姫』試論―「常ならずなりたる脳髓」を射たもの…	池田嘉穂子 85
『やみ夜』論―傀儡の他者性……………	橋本のぞみ 94
『たけくらべ』論―子どもたちと（近代）……………	
紙面のなかの『三四郎』……………	張替比呂美 103
『美しい村』のメチエ―隠し置かれた《装置》……………	小長井晃子 113
『不連続殺人事件』のトリックとロジック……………	渡辺麻美 124
―その文芸性をめぐって……………	鬼頭七美 134
『落窪物語』の敬語表現の運用原理……………	大塚多美子 143
近代における非情物主語の他動詞文について…	
―非情物主語の意味的変遷から……………	田口久美子 153

B・H・チェンバレンの日本語文語読本

A. Romanized Japanese Reader について……………清水康行 1

段落区分と要約文の表現方法……………佐久間まゆみ 13

「日本語と中国語の比較を表す程度副詞をめぐる…」

「―「もつと」と「更」……………大島潤子 24

会議の提案の談話における「話段」の展開と

ストラテジー……………桑原和子 33

「日本語教授法講義」で学んだこと

―受講生へのアンケートから……………川口義一 44

石綿敏雄先生に感謝申し上げる……………清水康行 161

〔書評・紹介〕……………

青木生子著『万葉の抒情』（青木生子著作集第五巻）

……………後藤祥子 166

後藤祥子著『王朝和歌を学ぶ人のために』……………佐田公子 168

金子英世・小池博明・杉田まゆ子・西山秀人・松木真奈美

共著……………

『千類集全釈』（私家集全釈叢書19）……………高野晴代 170

今川英子監修『林美美子 放浪記アルバム』……………

……………木谷喜美枝 171

渡辺みえこ（美恵子）著

『女のいない死の楽園―供儀の身体・三島由紀夫』

……………キース・ヴィンセント 172

清水康行編著『日本語表現法』……………田中章夫 175

〔彙報〕……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………